

宮城県鳴瀬川河口ヨシ原における標識調査

- 2000年～2003年(4年間)の記録 -

菊田英孝

調査地および調査方法の概要

鳴瀬川は宮城県の名峰船形山から加美郡、志田郡を経て桃生郡鳴瀬町野蒜海岸に流れ込む幹川流路延長89km、流域面積1,130km²の一級河川である。この鳴瀬川流域には河川敷にヨシ原が散在し、周辺地域の環境も豊かで、年間通して数多くの野鳥を観察することができる。河口部より1kmほど上部で吉田川と合流し、右岸はコンクリートで固められているが、左岸部には比較的広範囲でヨシ原が残っている。

調査地の環境は、鳴瀬川河口左岸(38°23'N、141°11'E)にある約5.0haのヨシ原で、一部に満潮時には地面が冠水する低湿部が散在する。周辺部にはクロマツを主体とする海岸林や田畑が広がり、付近のヨシ原内にはヤナギ類の低木も散在している。捕獲はATX、HTX、DTXのかすみ網を用いて行い、使用枚数は年度および調査日によって異なるが、最低5枚、最高14枚で行っている。調査は7月下旬から12月上旬(8月までは午後から日没まで、9月以降は早朝から午前中)の週末毎(年間31日～36日間)に実施している。

ポールはイレクターパイプと園芸用のポールを組み合わせて、高さを自由に調節できるようにし、地上50cmから2m50cmまで対応できるようにしている。また、捕獲効率を上げるために、各種(オオヨシキリ、ノゴマ、シマセンニュウ、アオジ、カシラダカなど)の鳴き声をながし誘引を行っている。

その結果、当地は県内のみならず全国的に見ても、北海道と関東以西を結ぶ渡りルートの貴重な中継地点となっていることが分かってきたので、この機会に紹介したいと考えたものである。

調査結果

2000年から2003年までの4年間で標識放鳥した個体は45種6459羽で、再捕獲個体は10種106羽であった。8月中はこのヨシ原付近で繁殖または越冬したと思われる個体(オオヨシキリ、ホオアカ、カワラヒワなど)、と留鳥(主にスズメ)の放鳥数が多い。また、当ヨシ原はツバメの集団場としても利用されており、例年7月下旬から9月上旬までの間、夕方には多くのツバメで賑わっている。そのツバメに標識放鳥しているが、蕪栗沼で短期間回収されている。時期によって場を変えているのか、その個体だけなのかはわからない。

9月の中旬よりシマセンニュウの移動がみられ、それが一段落する秋分の日以降にノゴマの移動がみられる。当地におけるノゴマのピークは10月の一週目で、県内でも珍しく相当数の移動が確認できる。ウトナイ湖放鳥個体の再捕獲もこの時期である。

10月の二週目以降になると、冬鳥の移動が始まり、10月19日を境にアオジが二週間かけて大量捕獲され、その後一気に収束していく。その後オオジュリンの捕獲が12月まで続くが、10月中には成鳥の割合が多く、11月の後半からはほとんどが第1回冬羽の個体が多くなっていき、渡りのピークは2回みられる傾向がある。

また、11月後半にはコジュリン、オオセッカ、ベニマシコなどが捕獲され、12月にミゾサザイが入ってくる頃、風の影響から調査が困難になるため、その年の調査を終了する。

再捕獲 106 羽の内、27 羽が Rt で、帰還率でみるとウグイスが 10% と高く、次いでホオアカ 6.7%、オオヨシキリ 5.4% と続いているが、オオジュリン、アオジは共に 1% 以下で、当地で繁殖または越冬すると思われる種は比較的高い数値になっているが、渡りをするものについては、調査日の関係からも回収率は下がっている。また、Rp は極端に少なく、ほとんどの種が渡りの中継地として当地を利用していることが示唆される。

再捕獲数のうち全体の約 70% は Rc で、オオジュリンが最も多い(63 例)。中でもダイレクト回収される個体は、Rc 全体の 47% と割合としては比較的高く、北海道、青森県、岩手県など、当地より北に位置する太平洋沿岸の放鳥地のものがほとんどである。県外では茨城県菅生沼、牛久沼や栃木県渡良瀬遊水池などからの再捕獲が多い。

2004 年の調査と今後の課題

今年の調査は 11 月 14 日現在、調査日 8 月 22 日～11 月 14 日までの内 19 日間で実施し、新放鳥 30 種 1684 羽、再捕獲 4 種 19 羽の計 30 種 1703 羽放鳥となっている。当地初放鳥としては、マキノセンニュウ(U・A、04.09.26 放鳥)、シマアオジ(U・J、04.10.24 放鳥)があった。また、再捕獲では、当地初となるロシア、カムチャッカ州放鳥(1999.09.01 放鳥)のオオジュリンを記録した。今後も、種数や個体数の詳細な季節的変動や性・齢による傾向などを知ることや渡りの中継地としての当ヨシ原の保全に結果を反映していくためにも今後更に継続していきたいと考えている。

